

# 関税の影響は？ 不透明感増す為替市場

## 関

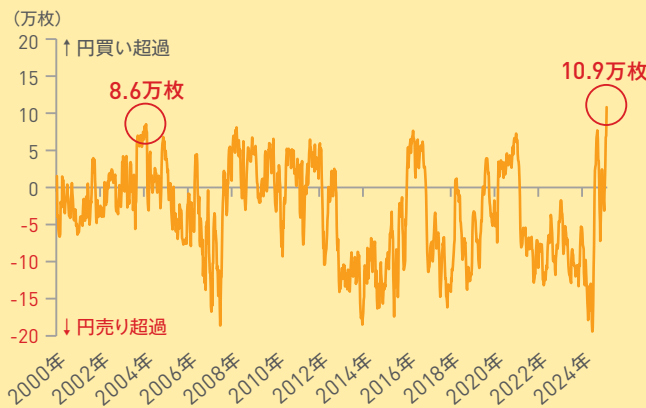
税の問題に絡んで、為替相場の動きが話題になることが増えてきた。米国への輸入に対する関税は、物価上昇と米金利高を招くことから最終的に米ドル高につながるとの観測もあったが、今のところは円高に動いている。一般的に「投機筋の動き」として解釈される米商品先物取引のIMM通貨先物ドル円ネット・ポジションは、約10.9万枚の円買い超過（2月25日時点）。およそ20年ぶりに過去最大を更新する規模で、これも大きな円高圧力になった。年度末は円高に向かうというアノマリーもあるが、実際にデータを見るとそのような傾向は見られない。一方で値幅は大きく、思惑によって動きやすい時期とは言えるかもしれない。しかし、円買いのポジションには

金利負担が発生するため、長期間この状況が維持されることは考えにくそうだ。

貿易や投資などの実需に加え、政治的な思惑、金利情勢、各国の通貨当局による直接的な介入など変数が多く、予想が難しいと言われるのが為替のマーケット。このところの米政権の動きは読みにくく、当面は荒い展開が続く可能性もありそうだ。

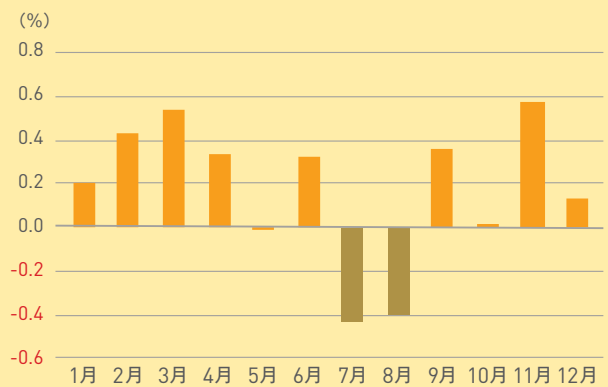
一方で、グローバルな視点で資産運用を考えるのであれば、為替リスクは避けて通れない。為替リスクと上手に付き合うためには、それぞれの通貨における選択肢を増やしておくのも1つ。例えば、待機資金は外貨建てMMFを使うのが一般的だが、選択肢は多いに越したことはないだろう。他の商品に目を向けてみてはどうだろうか。M

図表1 IMM通貨先物ドル円ネット・ポジションの推移  
(2月25日時点)



※データは非商業部門+非報告分 (出所)Bloombergのデータをもとに当社作成

図表2 米ドルの月別騰落率(対円)  
(1995年3月~2025年2月の月次騰落率をもとに作成)



(出所)QUICKのデータをもとに当社作成

## ピムコ・パーミュダ・トラスト ピムコ ショート・ターム ストラテジー 米ドルクラス / 円クラス (ヘッジあり) / 豪ドルクラス (ヘッジあり)

パーミュダ籍オープン・エンド型契約型公募外国投資信託

投資元本の保全と日々の流動性を確保しつつ、  
インカムの最大化をめざします。

主として米ドル建て投資適格債券に幅広く投資を行い、  
デュレーションは原則、1年以内とします。

商品のお申込みにあたっては目論見書等を必ずご確認ください。目論見書等のご請求はお取引店までどうぞ。

